

<様式1>

令和2年度 さいたま市立城北中学校 自己評価書

校長 玉崎芳行 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

本校の学校教育目標は「思いやりのある生徒・真剣に学ぶ生徒・健康な生徒」である。本年度の指導の重点を学校経営方針「自律・進取・友愛の気概溢れる我が学び舎“チーム城北”の創造」のもと、

- (1) 生徒一人ひとりの実態を理解し、工夫を生かした適切な支援ができる学校
- (2) 生徒があたりまえの事をあたりまえにできる学校
- (3) きれいな学校

の3点に置き、組織的に教育活動を推進してきた。

2 評価結果について

重点項目(1)「学校の適切な支援」については、「授業は楽しく分かりやすいか」に、肯定的に回答した生徒は89.9%となり、2年続けて増加した。「学校は生徒の学力を高め、能力を伸ばしている」に肯定的に回答した保護者も75%にのぼり、過去5年間の中で顕著に高い数値を示した。「教師が生徒の悩みや相談に親身になって応じているか」に肯定的に回答した生徒は、94.3%で、2年続けて増加した。さらに、「楽しく学校生活を送っているか」に肯定的に回答した生徒は、95.2%で、前年度を3.6ポイント上回り、過去5年間で最も高い数値を示した。コロナ禍で生徒に精神的な負荷がかかる状況下、教職員が高い意識で、「わかる授業」を実践し、生徒に寄り添い一人ひとりの実態理解に努め、適切な支援を組織的に継続した結果であると分析する。

重点項目(2)「生活規律」については、「大きな声であいさつしているか」に肯定的に回答した生徒は76.9%と、前年を下回ったが、「時と場に応じた服装と着こなしができていくか」に肯定的に回答した生徒は96.7%と前年同様高い数値を示した。「生徒は生活面で安定しており、正常な学校生活が営まれている」に肯定的に回答した保護者は91.7%と前年同様高い数値を示した。この結果は、「考える力の育成」を研究テーマに、学校教育における生徒指導・教育相談に係る不易と流行の視点から、組織的に研究に取り組み、日々の指導に繋げてきたことで得られたものであると分析する。

重点項目(3)「きれいな学校」については、「美しい環境づくりを意識して行動できているか」に肯定的に回答した生徒が92.1%と前年を上回り、「学校は適切に環境整備されている」に肯定的に回答した保護者も88.9%で過去5年間の中で顕著に高い数値を示した。清掃指導の徹底や生徒専門委員会の活動による日々の校内美化と、市立学校ESCO事業における照明のLED化工事等による環境整備がもたらした結果であると分析する。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

(1)「適切な支援」については、「家庭学習をよくやっているか」に、肯定的に回答した生徒は、前年度同様62%に留まった。GIGAスクール構想の実現に向け、一人一台のタブレット端末が整備されるこの機会に、生徒や家庭への家庭学習や個別学習の進め方の指導や、教員による家庭学習の見取りについて、方策の組織的な検討に着手する。(2)「生活規律」については、生徒指導・教育相談の研究によって得られた知見を次年度以降に生かし、生徒一人ひとりの自律と自立を目指した健全育成を図っていく。その中で、校則やきまりについては、生徒・保護者・地域・教職員の意見を取り入れ、より合理的なものへと見直しを図っていく。また、不登校生徒への対応やさわやか相談室のあり方について、教職員の共通理解を深め、教員、さわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保護者が緊密に連携し、組織一丸となって生徒一人ひとりの理解に努め、居場所の確保と学習保障を実現する。(3)「きれいな学校」については、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じたうえで清掃活動を徹底し、さらに、花と緑を増やす活動を計画・推進していく。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。